

ウェルフェア イズ ラヴ

2026年2月19日 号

最近の福祉におけるキニナル話題（福祉の旬トピ★）

先日インターネット上で、NPO 法人子育てひろば全国連絡協議会様の、「地域子育て支援拠点の質的向上と発展に資する実践の状況把握調査 2025」の概要を閲覧しました。

地域子育て支援拠点は子どもと家庭が最初につながる子育てインフラ

8項目の調査結果の中で当事業所代表が特に気になったのは調査結果③「子どもにとっても、親にとっても身近な居場所として定着」のところで、拠点の職員に求めることの1位が「日常的な会話を一緒にやって楽しむ」であったこと。

そうなのですね…。当事業所代表は社会福祉士という立場上、「具体的な情報や助言などを与え（てくれ）る」にどうしても重きを置きがちだけれど、利用する子育て家庭のニーズはそこが第一ではないですね…。「拠点を利用する理由」でも、「専門家に育児などの相談をしたいから」は 18.4%。回答項目の中では最も低くなっている。「拠点の職員と話をしたり相談したいから」は 51.1%。きっと、「専門家に育児などの相談をしたいから」と、「拠点の職員と話をしたり相談したいから」では、同じ「相談」という言葉が使われてはいるけれど、その2つの「相談」は質的に全く異なる行為なのでしょうね。

当事業所代表にとって、「大切な現場（当事者）の声」を教えて頂いた調査となりました。この調査結果を周知下さった、ある地域子育て支援拠点の代表者様に感謝致します。

○スタッフのヒトリゴト○

ミラノ・コルティナ冬季オリンピックでの、10代後半から20代の若い日本選手の活躍が目覚ましいですね。

彼（女）らを見ていると、「国の代表なのだから。」とか、「皆に応援されているのだから。」というようなことよりも、「自分らしく楽しく、大好きな競技の試合をしたい。」という気持ちが強いように見受けられます。世代によって受け止め方は異なるのかもしれないけれど、こういった「ヘンな気負い」を捨てた自然体の姿勢に、個人的にはとても好感を覚えます。

LOVE のラブラブな実践

先日、NPO 法人 未来 ISSEY 様主催の『病気療養中の高校生を応援する支え合い井戸端セミナー 四国会場 in 香川』に参加させて頂きました。

様々な立場の方々からの発表があったのですが、当事業所代表の心に最も刺さった言葉は、当事者家族の方からの、「病気と向き合うだけでも精一杯なのに、利用可能な制度を探し交渉する役割も家族が担わなければならないのか？」という問題提起でした。社会福祉士（ソーシャルワーカー）としてまるで自身に言われているかのような感覚に陥りました。

また、後半では「香川の取り組み」を伺う機会もありました。学校や病院の取り組みも紹介され、教員や医師が奮闘されていましたが、学校ソーシャルワーカーや医療ソーシャルワーカーに対する言及が全く無かった点には違和感を覚えました。質疑の機会があれば確認させて頂きたかったのですが、生憎時間が押してしまい質疑の時間が取れなかつたことは残念でした。

恥ずかしながら当事業所代表自身これまで深く認識していなかったテーマであるので、セミナーで配布された『治療と学びの両立をめざすガイドブック 高校生版』を読み込むことから始めたいと思います。

ブログ記事でも紹介させて頂きました。 ブログでも詳細を記していますので宜しければご覧下さいませ。

[病気療養中の高校生を応援する支え合い井戸端セミナー | 社会福祉士相談所 LOVE](#)

県内の福祉イベント案内 他♪

香川県内でひとり親家庭支援を担われている「ひとり親パートナーズ」様の主催するフリーマーケットが、2/22（日）10：00～15：00 に高松大学・高松短期大学で開催されます。ひとり親パートナーズ様の Web サイトの当該案内のページと合わせて、代表の方が Facebook のイベントページも開設されているので、リンクさせて頂きます。冬のステキな日に、お買い物を楽しむてはいかがでしょうか。

Web サイト 当該イベント案内ページ：[ひとり親パートナーズの活動](#)

FB イベントページ：[冬のわくわくフリーマーケット | Facebook](#)

発行 社会福祉士相談所 LOVE

住所 〒761-8071 香川県高松市伏石町 1562 番地 伏石ハイツ第1 201号

電話 090-7780-7565

メール you-19830818@outlook.jp

ホームページ <https://lovesocialworker.com/>

転載や拡散、配布大歓迎！！

来週号も乞うご期待 